

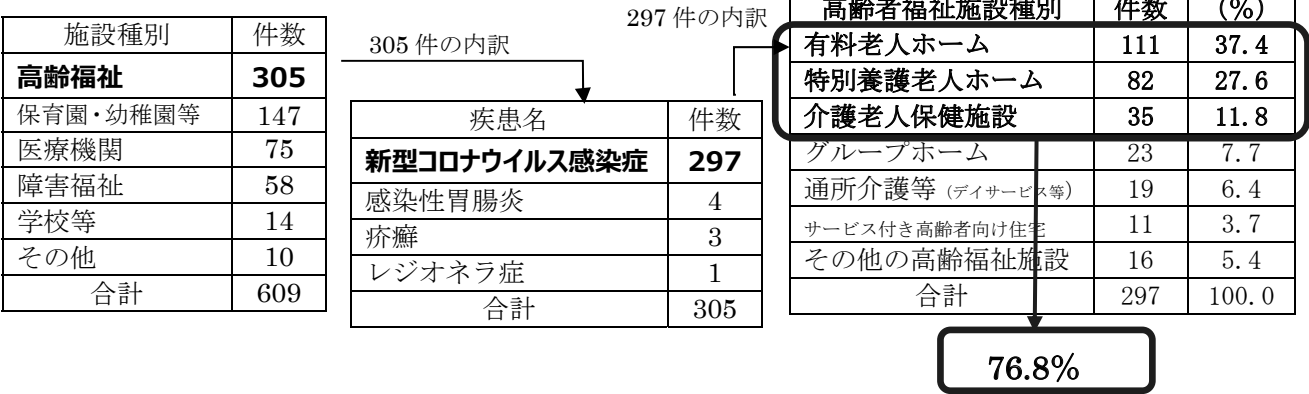
高齢者福祉施設の感染症対応力の向上に向けた地域づくり	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 令和5年度 終了 令和6年度
背景	保健所は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時、施設の集団発生に対して感染症法に基づく積極的疫学調査を行った。当時の対応事例から、特別養護老人ホーム等の入所型の高齢者福祉施設では、感染症の拡大が高齢者のＱＯＬの低下に影響している実態を把握し、高齢者福祉施設の感染症対応力の底上げの重要性を認識した。また、集団発生に際し、必要に応じ地域の感染管理認定看護師（以下、「ＩＣＮ」とする。）が保健所に同行して感染症の専門知識に基づき施設に助言したところ、施設の感染症対応力が強化されたことから、医療機関に従事する専門家という地域の資源と施設をつなぐ地域連携が施設の対応力向上に寄与することを認識した。 これらを踏まえ、高齢者福祉施設の感染症対応力の向上に向けた地域づくりを目指し、本事業に取り組むこととした。管内6市の特別養護老人ホームをモデル施設に選定し施設の取組をまとめた好事例集や感染対策チェックリストを用いて、管内の高齢者福祉施設への啓発や地域の関係機関との繋がりを醸成することを目的に事業を計画した。
目標	・保健所やＩＣＮの活用、施設間での相談等が活発に行われ、感染対策について地域で取り組むことができる。 ・高齢者福祉施設での感染対策が底上げされ、集団発生を起こさない。
事業内容	【令和5年度の実施分】 ・高齢者福祉施設向け研修会及び意見交換会の開催 ・シンポジウムの開催 ・チェックリストの作成と普及啓発 【令和6年度の実施分】 ・事例集作成検討委員会の開催 ・事例集の作成とデジタル化 ・チェックリストのデジタル化 ・高齢者福祉施設向け研修会及び意見交換会の開催
評価	管内6市の高齢福祉主管課等と意見交換を実施し、高齢者福祉施設の感染症対策における課題を整理した。課題に対応した目標を設定し、2年間で計5回の研修を実施した。研修では、毎回意見交換の場を設定することで施設同士の横のつながりや地域のＩＣＮとの顔の見える関係を築くことができ、参加者の満足度が高かった。また、高齢者福祉施設の施設長向け及び職員向けのチェックリストを作成したところ、チェックリストを活用した施設では、自施設の感染対策の評価、職員の感染対策の習得に向けてのツールとして有効活用されていた。各施設の取組が継続して行われるよう、チェックした結果が自動でグラフ化されるフォーマットを作成し、ホームページ上で活用を促した。 事例集の作成においては、管内の特別養護老人ホームの施設長等及びＩＣＮを委員に選出し、事例集作成検討委員会を設置した。検討委員会で、事例集の表紙をはじめ、タイトルや掲載内容に至るまで検討を重ねた。事例集の執筆は、高齢者福祉施設の他、ＩＣＮや管内6市高齢者福祉主管課、保健所内の複数の課が携わり、事例集の作成を通し、地域連携を推進する一助となったと考える。 今後は、特別養護老人ホーム以外の高齢者福祉施設等をはじめ、保育園等他の福祉施設にも取組を展開し、地域全体で感染対策が充実するよう働きかけていく。
問合せ先	多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策担当 電話 042-362-2334 ファクシミリ 042-360-2144 E-mail S1153401@section.metro.tokyo.jp

1 事業背景

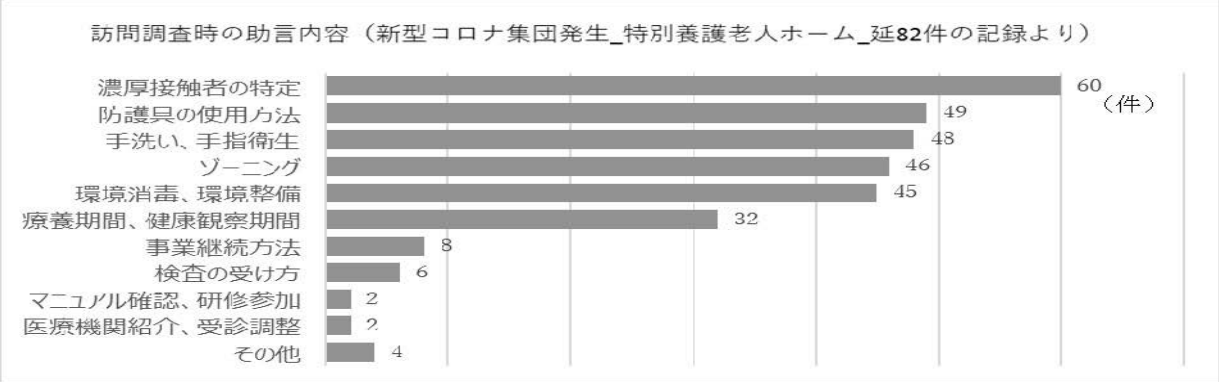
令和4年度、保健師が実施した積極的疫学調査*の施設数総計は609件であるが、そのうち305件が高齢者福祉施設で全体の約半数をしめていた。発生疾患別内訳では新型コロナウイルス感染症が305件中297件で、その内訳では入所系施設での発生が多く、全体の76.8%を占めていた。

※感染症法第15条に基づき、保健所保は感染症の発生状況、動向及び原因を明らかにし、感染症の発生を予防し、又はそのまん延を防止するために調査を行う。

令和4年度 積極的疫学調査 施設種別及び疾患名別

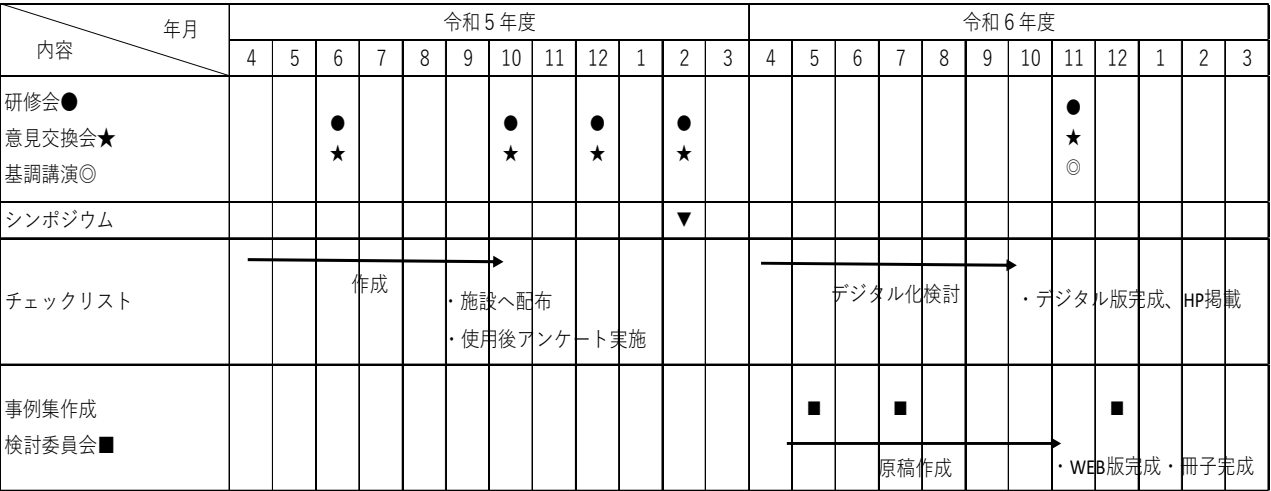


令和4年度、保健師が特別養護老人ホームへ訪問した82件の記録から助言内容を分類、集計した。一番多かった助言内容は濃厚接触者の特定に関することだった。この背景には、当時のコロナ対応において、濃厚接触の範囲を特定する必要があることがある。次いで、防護具の使用手法、手洗い・手指衛生、ゾーニング、環境消毒・整備と基本的な感染対策に関することが多かった。



特別養護老人ホーム等の入所系の高齢者福祉施設においては、コロナに限らず、感染症が持ち込まれると広がりやすい傾向があった。また、入所系施設で感染症が拡大すると入浴やレクリエーション、集合での食事等を止めることになり、入所者のADLやQOLの低下につながっていることを課題と捉え、対策は急務と考え、本事業に取り組むこととした。

2 事業スケジュール



3 令和5年度事業実績

(1) 研修会及び意見交換会の開催

研修会では、地域課題を踏まえ、研修テーマを設定した。毎回、意見交換の場を設け、施設を超えた顔の見える関係を築く場を提供した。参加者からは、他施設との交流の場は少ないため、貴重な機会となったとの声が多数聞かれた。

開催日 開催方法	研修テーマ	参加者	参加 人数
	意見交換テーマ		
6月22日 WEB+集合	「行動が変わる！」迷わない・疲れないシンプルな感染対策へ	特別養護老人ホームの施設長、看護職員、介護リーダー職員、管内6市職員、ICN等	59名
	3年間のコロナ対応を通して大変だったこと、課題と感じていること、施設内での取組等		
10月11日 集合	集団発生事例を通して施設管理を考える～多職種や他機関との連携について学ぶ～		38名
	施設内でのマニュアルの活用実態、見直しについて		
12月18日 集合	感染対策マニュアル活用～せっかく作ったのに眠っていませんか？～		16名
	講義・取組紹介をうけて自施設のマニュアルを振り返る 自施設でのマニュアル活用に向けて		

(2) 感染対策チェックリストの作成

高齢者福祉施設の施設長向け及び職員向けのチェックリストを作成し、高齢者福祉施設に提供した。管内に所在する特別養護老人ホーム38施設中30施設の施設長がチェックリストを活用し、自施設の点検を行った。使用後のアンケート結果からは、『自施設の強み弱みを把握する機会となった』『継続使用することで職員の感染対策の標準化につなげたい』という意見が多く、自施設の感染対策の評価、職員の感染対策の習得に向けてのツールとして有効活用されており、継続的に使用することの意義などが見えてきた。



施設管理者向けチェックリスト



職員向けチェックリスト

(3) シンポジウムの開催

シンポジウムは2部構成とし、事例報告及び意見交換を行った。

第1部の事例報告では、管内に所在する特別養護老人ホーム4施設が取組の報告を行った。

第2部の意見交換では、シンポジウムのテーマについて、コロナ禍を振り返り、「変わったこと、変わらないこと」を共有し、良い変化をどのように持続可能とするか、また好ましくない不変をどのように改善していくかを共有することができた。

テーマ	コロナ禍を乗り越えて・・・変わったこと、変わらないこと
開催日	令和6年2月26日
事例報告	・親の家(武蔵野市)「他施設との連携による有事への備え」 ・ピオーネ三鷹(三鷹市)「多職種連携と外部資源の活用」 ・桜町聖ヨハネホーム(小金井市)「小さいことの積み重ね/基本的な感染症対策の徹底」 ・こまえ苑(狛江市)「多職種連携と情報共有」
シンポジスト	管内6市から1施設ずつ、計6施設の職員
参加者	特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム、医療機関等の施設から施設長や看護師、介護職等
助言者	東京慈恵会医科大学附属第三病院 ICN
講評	帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科教授 工藤 恵子氏
参加人数	53名

4 令和6年度事業実績

(1) 研修会及び意見交換会の開催

令和6年11月22日開催

基調講演	テーマ	介護事業所における感染対策を支える地域ネットワーク
	講師	医療法人社団梶社会西田医院 西田 伸一医師
	内容	講師の豊富な経験を基に、高齢者施設における感染症対策の課題や思い、在宅医の立場から考える地域ネットワークの重要性、これからの高齢者施設に期待すること等
研修会	テーマ	感染対策の基本
	講師	東京慈恵会医科大学附属第三病院 I C N
	内容	感染症に関する基礎知識「手指衛生」について
参加者		特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム、医療機関等の施設から施設長や看護師、介護職等
参加人数		85名

意見交換会

テーマ	施設で行っている感染対策の工夫や他の施設に聞いてみたいこと
参加者	特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム等の入所系施設の職員
方法	ブレイクアウトルームを活用したオンライングループワーク
参加施設数	17施設

研修会の様子



意見交換会の様子



(2) 感染対策チェックリストのデジタル化

感染対策の現状把握を行うツールとして令和5年度に作成した、「施設管理者向け」と「職員向け」の2種類の感染対策チェックリストをデジタル化した。デジタル版では、Microsoft Formsを用いて、施設で活用できるフォーマットを作成しホームページで公開した。デジタル化のメリットは、施設職員の立場からは、パソコンやスマホから自身の感染対策における意識や手技の確認を手軽に取り組める点が挙げられる。またデジタル版では、回答に対するコメント表示があり、感染対策についての知識を改めて確認することができる。合わせて達成率も可視化して表示されるため、職員一人ひとりの感染対策の振り返りに有効である。施設管理者の立場では、保健所が提供するテンプレートを使ってフォーマットを作成し、それを施設の職員に配布することで、施設内でチェックリストのデータ集計が可能になった。自施設職員のチェック結果を集計することで、自施設の感染対策における現状把握ができ、弱点と強化ポイントを明らかにすることができ、そして次の発生に備えた感染対策を強化することができる。



デジタル版チェックリスト
(施設管理者向け)



デジタル版チェックリスト
(職員向け)

北多摩南部



▼事例集作成検討会

開催日	検討内容
令和6年5月30日	事例集タイトル 各施設の執筆テーマ 事例集の活用方法 感染症情報のページについて
令和6年7月26日	原稿作成の進捗状況の確認 研修会、基調講演の企画について チェックリストの活用促進について
令和6年12月26日	研修会、基調講演の実施報告 事業の振り返り 今後の展望について 他機関連携の醸成に向けて



▼事例集作成検討委員会委員及び事例執筆施設

市	施設名	テーマ
武蔵野市	親の家	連絡会や合同研修などによる他施設との連携強化
	さくらえん	効果的な研修と人が辞めない組織づくり
三鷹市	ピオーネ三鷹	多職種（One Team）で取り組む感染症対策と研修の工夫
	弘済園	施設全体で統一した対応を取るための情報共有の工夫
府中市	信愛泉苑	施設全体で一致団結し、統一した感染症対策の実現
	明日に架ける橋	みんなで作った見えるマニュアル
調布市	ちょうふの里	感染症対策マニュアルの工夫と施設での活用～マニュアルを活かし続けるために～
小金井市	桜町聖ヨハネホーム	発生時の臨時会議（皆で決める方向性）と日々の健康管理
	つきみの園	みんなで一致団結して取り組む感染対策
狛江市	こまえ苑	職種を越えた職員同士のコミュニケーションや連携
	こまえ正吉苑	チーム力を高める仕掛けづくり～みんなで考え、対応する力～
	こまえ正吉苑二番館	平常時の対応強化～研修の工夫と感染対策物品の整理整頓～
コラム	東京慈恵会医科大学 附属第三病院	ICN（感染管理認定看護師）とは／地域の医療機関との連携
	調布東山病院	衛生的な物品管理のコツ



隣の施設の感染対策アイデア帳

5 今後に向けて

高齢者福祉施設の課題に対応した研修会の開催や意見交換会の実施により、保健所やICNの活用、施設間での相談等が活発に行われ、高齢者福祉施設内における適切な感染対策が推進されてきた。また、事例集の作成を通し、高齢者福祉施設やICNとの連携が増えたことで保健所が目指す地域連携の必要性や重要性が認知され、意識が高まった。一方で、地域連携の重要性は広く認識されたものの、保健所にネットワーク構築の主導を要望する等、各施設においては地域のキーパーソンとなり、主体的に動いていくことにハードルがあることがわかった。

感染対策においては、施設で持続可能な体制構築の評価は経年で変化を見ていく必要があり、また施設種別を越え施設同士で主体的に地域連携することには、現在においても保健所等の後方支援が必要な状況にあり、引き続き事例集やチェックリストの普及啓発を通して、感染対応力向上に向けて自発的な取組が継続できるよう、地域連携の促進を目指し支援を続けていく。また地域ネットワークの構築が推進されるように管内各市へ事業の参加等を促し働きかけを継続すると共に、所内他部署の既存事業との連携も強化し、今後も地域づくりを平常時業務で継続していく。